

次期計画の施策の体系（案）

| 基本方針 | 施策 | 取組 |
|---|-----------------------|--|
| 1 誰もがスポーツを楽しめる機会の創出 ○子ども、子育て世代・働き盛り世代、高齢者、女性など、障害のあるなしにかかわらずすべての市民がスポーツを楽しむための機会をつくり提供します。子どものスポーツ実施率の二極化や、子育て世代のスポーツ実施率の低下など、スポーツに対する関心・行動の段階に応じた取組を行います。 ○競技性の高いスポーツだけではなく、スポーツをはじめのきっかけとなるレクリエーションや遊びの要素の強いアウトドアスポーツ、シーズンスポーツの推進を図ります。また、東京 2020 大会を契機に注目を集めたスケートボードなどの多様化するスポーツの紹介や ICT を活用したスポーツの推進を図ります。 ○都心にある武蔵野市として野外活動は重要な取り組みのひとつです。自然とふれあう楽しみや自然への畏怖などを伝える取組を行います。 | ①子どもが楽しむスポーツの推進 | ア 基本的な運動動作と体力の向上のための取組 イ スポーツの魅力や楽しさを体感できる機会の提供 ウ 日頃からの練習や活動の成果を披露する場づくり |
| | ②多様な主体が楽しむスポーツの推進 | ア 子育て世代・働き盛り世代へのスポーツに親しむ機会の提供 イ 高齢者・女性へのスポーツに親しむ機会の提供 ウ 全ての市民へのスポーツに親しむ機会の提供 |
| | ③自然と親しむスポーツの推進 | ア 自然とふれあう野外活動の充実 イ シーズンスポーツやアウトドアスポーツの推進 |
| | ④新たなスポーツとの出会いの創出 | ア アーバンスポーツなど新たな種目の紹介、普及・啓発 イ デジタルを活用したスポーツの推進 |
| 2 障害者スポーツの推進 ○障害を持つ当事者自身がスポーツを楽しむことができるように、身体を動かすことに対する意欲が高まり、レクリエーションや緩やかなスポーツの経験を重ねて継続的に取り組める機会を創出します。 ○障害者のだれもがスポーツに安心して親しめるように、障害の種別や程度に配慮しながら人材、施設、情報の面から環境づくりを推進します。 ○広く障害への理解を深め、共生社会の実現を目指すために、障害者スポーツの体験や観戦の機会を提供するとともに、インクルーシブスポーツの普及・啓発を図ります。 | ①障害者がスポーツに親しめる機会の創出 | ア 障害者が身体を動かす楽しさを体感できる機会の提供 イ 障害者がスポーツを継続して楽しめる機会の提供 |
| | ②障害者のスポーツを支える環境づくり | ア 障害者のスポーツ活動を支える人材育成の取組 イ 障害者がスポーツに取り組みやすい施設整備の充実 ウ 障害者の参加のしやすさに配慮した情報発信の充実 |
| | ③障害への理解を深めるスポーツの推進 | ア 障害者スポーツの魅力や楽しさを実感できる機会の提供 イ インクルーシブスポーツの普及・啓発と機会の提供 |
| 3 スポーツを支える担い手づくりと活動支援 ○昨今、社会の関心を集めているスポーツ・インテグリティの浸透、部活動の安定した実施に向けた指導者の確保など、指導者に求められる資質とスキルを兼ね備えた人材を育成します。 ○スポーツを支える人材を増やすため、支える活動そのものの魅力や楽しさを発信し、気軽に参加できる体験の機会をつくります。また、一度体験した人が続けて活動できるように継続の機会を設けます。 ○スポーツは多様な人材に支えられることで、より実施者の気持ちを理解して寄り添う環境ができます。障害当事者が自ら指導者となることや、女性がリーダーとなること後押しするような研修などを行います。さらに、子どものボランティア体験の場をつくり、将来自分が教えてもらった環境に戻って指導するといった好循環を生むきっかけにもつなげていきます。 | ①スポーツ指導者の発掘・育成 | ア スポーツ指導者の資質向上のための取組 イ スポーツ指導者の活躍の場を拡げる取組 ウ 部活動指導員の充実 |
| | ②スポーツボランティアの参加促進と活動支援 | ア 気軽に参加できるスポーツボランティアの機会の提供 イ スポーツボランティアの活動継続と定着を図るための取組 |
| | ③多様な主体が支える環境づくり | ア 女性や障害者等のリーダーの育成 イ 子どもがスポーツボランティアを経験できる機会の提供 |
| 4 スポーツに親しむ環境づくり ○引き続き、既存のスポーツ施設や公園、学校体育施設等を活用し、スポーツの場を提供します。 ○武蔵野市体育協会やその加盟団体、スポーツ推進委員との連携をより強化するとともに、生涯学習や健康、文化芸術といった関連団体、民間のスポーツクラブ等と連携し、スポーツを楽しむ機会や場の充実を図ります。 ○ホームページや SNS などのウェブ媒体、チラシやポスターなどの紙媒体などを組み合わせて、情報の内容や対象に合わせた情報発信を行います。また、民間施設も含めてスポーツ関連の情報を集約・発信し、自由に入手できるような提供方法を研究します。 | ①スポーツ施設等の有効活用 | ア 既存のスポーツ施設や公園、学校体育施設等の場の活用 |
| | ②スポーツ支援団体等との連携・協働の推進 | ア スポーツ支援団体との連携強化 イ スポーツ活動団体の自立支援の推進 ウ スポーツ環境の充実に向けた民間企業等との連携強化 |
| | ③スポーツ関連情報の提供方法の充実 | ア 多様な媒体による情報の発信・拡散 イ スポーツ関連情報等の集約・活用 |
| 5 武蔵野市の特性を生かしたスポーツ文化の醸成 ○地域の大学や地域で活動するスポーツ団体を応援する機会をつくり、地域の一体感の醸成や地域のつながりを育みます。市にゆかりのあるトップアスリートとの交流機会の機会や、各種競技種目や選手のあゆみなどを紹介することで、より深いスポーツの楽しさの理解につなげます。 ○観戦する喜びや感動の共有を提供するため、インターネットやパブリックビューイングなどの多様な観戦環境の充実や機会の提供を図ります。 ○学び知ることはスポーツをより一層魅力的なものにしスポーツをする動機付けにもなります。音楽等との融合もスポーツの新たな楽しみ方のひとつです。生涯学習・芸術文化等の他分野との横断的な取組を行います。 ○ラグビーワールドカップ 2019(TM)や東京 2020 大会の開催を契機に実施した取組を通じて築いてきた地域の団体とのネットワーク、運営のノウハウ、交流の実績を活かし、今後の取組へとつないでいきます。 | ①応援・観戦するスポーツの推進 | ア 大学スポーツや地域スポーツを応援する機会の提供 イ 多様なスポーツ観戦環境の充実 ウ 応援モラルの定着を図るための取組 |
| | ②多様なスポーツの楽しみ方の創出 | ア 芸術文化等の分野横断的なスポーツの楽しみ方の創出 イ トップアスリートとの交流機会の提供 |
| | ③大規模スポーツ大会のレガシーの活用 | ア ラグビーワールドカップ 2019(TM)のレガシーの活用 イ 東京 2020 大会のレガシーの活用 ウ スポーツを通じた国際交流 |
| 市立体育施設類型別施設整備 | — | — |